

令和5年度(2023年度) 第2回 健康すいた21推進懇談会 議事要旨

開催日時	令和6年(2024年)2月7日(水)午後2時から午後3時40分まで
開催場所	保健センター4階 集団検診室
出席者	岡本 玲子委員長、中村 清美副委員長、新居延 高宏委員、高木 忠徳委員、 三田 康子委員、栗田 智代委員、谷 将行委員、円野 久子委員、高田 耕平委員、 山本 雅子委員、福島 一美委員、今泉 まり委員 (以上12名)
欠席者	山本 保治委員
傍聴人	1名
議題	(1)健康すいた21(第3次)分野別取組の検討 分野Ⅰ 暮らしにとけこむ健康づくり (2)健康すいた21推進懇談会意見への対応について (3)食育共同研究の事業評価について
資料	資料Ⅰ 健康すいた21(第3次)分野別取組の検討 資料2 健康すいた21推進懇談会意見への対応状況 資料3 食育共同研究の事業評価について 参考資料Ⅰ 健康すいた21(第3次)分野Ⅰ 評価指標一覧 参考資料2 健康すいた21推進懇談会委員名簿

発 言 概 要

(1) 健康すいた21(第3次)分野別取組の検討

分野Ⅰ くらしにとけこむ健康づくり

【資料Ⅰに基づき事務局から説明】

●委員長

楽しみながら自然と健康になれるまちづくりについて、現在実施されている取組や、今後必要だと思う取組はありますか。

●委員

社会福祉協議会では、33の地区福祉委員会で地域の住民が主体となって独居高齢者を対象とした「ふれあい昼食会」を実施しています。新型コロナウイルス感染症の影響で会場を分散し、少人数で開催することとなりましたが、より身近な場所での開催となったことから、参加しやすくなりました。新たな参加者が中々、増えないため、今後は周知等を工夫していく必要があります。

●委員

吹田地区栄養士会についても同様に、新たなメンバーが集まらないという課題があり、既存の取組を続けていくことも難しい状況です。吹田市健康づくり推進事業団が実施するみんなの健康展等のイベントへの参加やスーパーマーケットとの連携等、他団体との連携を通じて、活動していきたいと考えています。

●委員

市民としては、イベント等が実施されていると参加しやすいと思います。市の LINE 公式アカウントではイベント情報等も配信されており、情報発信の手段としては有効だと思います。個人としては、より多くの方に情報を広めるためにも、すいた健康サポーターを広める等の活動をしていきたいと思います。

●委員

LINE は高齢者の方でも取り組みやすい SNS だと思います。社会福祉協議会では、大学生が高齢者の方にスマホの使い方を教える講座を開催しており、HP の見方や市公式の LINE 登録の方法などを具体的にお伝えしていますが、自分が利用したい目的以外の理由でアプリをダウンロードすることに慎重な方もおられます。

●委員

認知症予防のためには1日1万歩程度歩くことがよいという研究結果があるため、私自身ウォーキングを行っていますが、住んでいる地域は、夜、まち全体が暗いため、歩きにくいと感じています。健都レールサイド公園など吹田市は街灯も多く、防犯対策も進んでいるため、ウォーキングに取り組みやすい環境が整っているのではないかと思います。

海外では、ナッジ理論を活用し道にラインを引いてウォーキングしやすい環境を整えたり、何m、何歩といった歩行距離を示し、目標をもって歩けるような仕掛けづくりをしています。本市でも検討してはどうかと思

いますがいかがでしょうか。

○事務局

健都イノベーションパーク内に進出している企業で、敷地にラインを引いて歩行を促進する環境づくりを実施しているところもあります。

●委員

健康経営優良法人として認定されている吹田市の企業は、現在 53 企業と当初より増加しています。こうした企業を増やすためには、企業側に補助金等のインセンティブが発生するような政策があれば良いと思います。補助金以外にも、健康経営に取り組んでいるスーパーで買い物をするとポイントが貯まるといった仕組みづくりを行う等、企業側にもメリットが出やすいような取組を行うことも一つの方法だと思います。また、事業主健診に補助を出せば受診者も増えると思います。

●委員長

インセンティブには財源が必要となりますが、健康経営に取り組む企業の事業内容を周知し、市民の利益にもつながるような、双方がメリットを感じる取組は良いと思います。

○事務局

財政的な支援は難しいですが、健康経営に取り組む企業をPRするなど、行政とタッグを組んで市民の方にも健康経営の取組を知っていただき、双方がメリットを感じるような取組は検討していきたいと思います。

●委員

アスマイルのようにインセンティブがもらえる仕組みがあると、モチベーションにつながるかと思います。

●委員

インセンティブの仕組みは、健康の取組を既に実施している人に対しては有効な手段かと思いますが、健康に関心がない人には響かないため、健康に関心がない人にも健康の取組を実施してもらうためには、ナッジ理論を活用した仕掛けづくりが効果的だと思います。例えば、エレベーターでなく、階段の利用を促したり、ロコモティブシンドロームのチェックができるベンチを置くなど、日常の中で気付きを与えるような仕組みづくりを企業と連携して実施するのも一つの方法だと思います。ほかにも、防犯委員の方が地域を見回る際に、ノルディックウォーキングをしてもらうなど組み合わせれば面白いと思います。

また、健康器具を設置するだけではなく、市民の方にどう活用してもらえるか、市が行っている取組をどうPRできるかが大事だと思っています。健康づくり推進事業団では、情報誌「健康すいた」で掲載しているウォーキングコースに、健康器具のある公園等の情報を追記し、市民の方が利用しやすいよう周知しようと考えています。

●委員

過去、千里丘駅の階段に二つの選択肢が記されたシールが貼られており、選択によって、昇る箇所が分かれているという取組をやっていましたが、面白かったです。

●委員長

市と企業が連携し、ナッジ理論を活用した仕掛けづくりの取組を公開することで「ナッジのまち吹田」「仕掛け学のまち吹田」といった発信ができれば面白いと思います。

●委員

ららぽーと EXPOCITY 内に、情報発信施設(inforest すいた)がありますが、有効活用されていないように思います。人がたくさん訪れる場所なので、健康に関するイベントや啓発等で、より有効的に活用してはどうかと思います。

●委員長

人が集まるような場所が有効に活用されているかを確認していくことも必要だと思います。

続いて、市民の主体的な健康づくりを支える取組について、現在実施されている取組や、今後必要だと思う取組はありますか。

●委員

新型コロナウイルス感染症の影響で中断している事業もありましたが、少しずつ再開しており、健都ライブラリーでの講演会やレディース健康フェスティバルでの啓発を実施しています。

今後は、健康に関心がない人にも関心をもってもらうようなアプローチが必要だと思っています。健康サポート薬局等では、現在もお薬を渡す際や、相談を受けた際にアドバイスなどは行っており、身近な場所で、健康に関心のない人にもつながっていきやすいようにしていきたいと思っています。

●委員

千里ニュータウンプラザには、市民の方に歯のことを知ってもらう施設として口腔ケアセンターがあります。また、歯科医師会では出前講演を実施していますが、他の事業と同様に就労世代へのアプローチは難しい状況です。

市が作成している健診ガイドブックには、市の LINE 公式アカウントが記載されていますが、現在どれぐらいの登録者数がいますか。また、健診結果をアプリ等を使って、自分で確認できる仕組みというのはありますか。

○事務局

LINE の登録者数については、手元に資料がないため、お答えできません。また、健診結果を確認いただける市のアプリというのはありませんが、健康増進法に基づく健(検)診であれば、マイナポータルで結果を確認いただけるようになっています。

●委員長

くらしにとけこむ健康づくりの評価指標に、公式 LINE の登録者数や市や企業が実施しているナッジの取組数を追加することも、今後検討しても良いのではと思いました。

●委員

アスマイルにも健診結果の入力ができる機能があり、結果を入力することで、生活習慣病等の発症確率の予測や、自分の数値を同世代と比較したグラフを見ることができます。

●委員

歯科医師会の出前講演は、企業も対象となりますか。

●委員

市内で在勤されている方も対象となります。

●委員

健康づくり推進事業団では、健康づくりを行うための場の提供として、江坂公園等、人が集まりやすい場所での健康イベントの開催のほか、地域のイベントにブースを出展するといった取組をしています。ブースの出展にあたっては、産学連携の場として、大阪公立大学やカイセイ薬局、さんくらぶ等にも協力していただいています。毎回出展いただくと負担となることから、連携いただける企業等を継続的に募っているところです。

●委員

地域で実施している夏祭りやもちつき大会等のイベントには、子育て・就労世代を含めた多くの人が集まるため、そういった機会を活用してはどうかと思います。夏祭りではジャンクフードも多く提供されているため、健康を意識したお店が出展されていてもいいのではないかと思います。

●委員長

人が集まる機会を有効に活用するため、マーケティングを行い、どうアプローチするのかを検討するのは、良い取組かと思います。

●委員

今回、レディース健康フェスティバルは、若い世代が集まる江坂公園で実施することで、身近な場所で健康を目的としていない人にも健康に関する情報を提供する機会につながっていると思います。

また、企業との連携を行政が行うには難しいこともあるため、健康づくり推進事業団が企業や地域団体と連携し、地域で楽しく健康を学ぶための場所づくりを支援していきたいと思っています。

●委員長

企業や団体が実施している健康の取組がまとまって見られる情報サイトがあり、お互いに情報を共有できるようになるといいと思いました。また、そういった企業や団体をつなげるコーディネートの役割を担う団体や人がいれば良いなと思います。

(2) 健康すいた 21 推進懇談会意見への対応について

【資料2に基づき事務局から説明】

●副委員長

かるしおアレンジメニューなどは給食を通じて、保護者世代に気づきの機会をもっていただく、良いきっかけとなる取組だと思います。

また、共食の機会が多い人ほど野菜摂取量が多く、男性でその傾向が強いという調査結果があります。誰かと食べるということは、家族以外でも良いため、誰かと外食するというのも良いと思います。飲食店でヘルシーなおつまみ等が提供されていれば、より健康につながるかと思います。

●委員

健康まちづくり室と連携し、たばこに関する啓発等を小中学校で実施しています。子供の頃から学び、行動に移していくことが大切だと思います。

(3) 食育共同研究の事業評価について

【資料3に基づき事務局から説明】

●委員

子供から親への発信は大切であり、子供が調理実習等で体験したことを保護者に伝えることで得られる気付きは大きなことだと思います。また、オンラインでの講座等も参加しやすく良い取組かと思いますが、実際に調理実習をした後に話を聞くと記憶に残り効果的ですし、香りや味を感じてもらうことも大切だと思います。

(4) 今後の予定

来年度は計画期間の中間年度になります。これまでに頂いた御意見等を踏まえ、計画の目標達成に向けての検討等を深めたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(閉会)